小型船舶の安全対策
～日米の水上安全協力体制の構築～

海上保安庁では，北米水上安全組織関係者と積極的な交流を図っている。

令和元年６月，JBWSS（日本水上安全・安全運航サミット）に参加するため，米国の水上安全を統括するUSCG（米国沿岸警備隊）本庁のスコット・ジョンソン課長をはじめ，北米水上安全組織関係者９名が来日した。

来日中の５日に横浜海上防災基地で行われた「カヌー及びSUPの安全運航技術の確認及び意見交換会」では，日米の海上保安機関とカヌー及びSUP関係者が一堂に会し，カヌー及びSUPの荒天時における初心者と熟練者の操船技術を比較検討するなど，日本の民間関係者の安全意識の高揚に繋がった。

北米水上安全組織関係者は，翌６日に海上保安庁を表敬訪問し，日米の水上安全の相違等を議題に積極的な意見交換を行った。７，８日に東京海洋大学で開催されたJBWSSでは，日米の官民65団体が参加する中，米国の水上安全の取組についての報告があるなど，日米の水上安全協力体制の構築に大きく寄与することとなった。

今後も引き続き，北米水上安全組織関係者と積極的な交流を図り，米国の水上安全の取組を参考とし，多様化・活発化する海上活動に対応していくこととしている。

カヌーの安全運航技術の確認

海上保安庁表敬訪問及び意見交換会

JBWSS